

5年前に建てられた「あずまや」。雨や雪をしのぐだけでなく、見知らぬ者同士の語らいの場にもなります。取材の日、あずまやの中でチョコレートをご馳走くださったお二人、どうもありがとうございました。



南区から月に2、3度は来ると言う泉勇吉さん。な、何と91歳でこの若々しさ！山男は年を取らないのか？「北海道の山は全部登ったよ」とのこと。恐れ入りました。



二の坂を越えると「こぶし平」という広場があり、木のベンチが置かれています。三の坂から四、五、六と登り、谷側を振り返ると日本海が望めます。七の坂を越え、八の坂に来ると「人面石」があるので、探してみてください。

ご利用の際は譲り合いを。あずまやを出発して広場を過ぎ、十の坂を登り切ると山頂です。登山口から四十分ほどかかりました。頂上には「二等三角点」と刻まれた石が置かれています。



あずまやのテーブルに置いてあるノート。訪れた人のさまざまな思いが書き込まれています。

ます。これを基準として、地図や道路が作られます。また、頂上に来ると、登り切ったという満足感を味わえるとともに、そこからの眺めを楽しむこともできます。円山や宮の森ジャンプ競技場を望み、山頂の空気を十分吸ったら、来た道を降ります。下りは三十分で済みました。

三角山は都市山と言われますが、自然は厳しいものです。水、雨具、防寒具などを留意し、気候の変化には十分注意してください。なお、FMラジオ三角山放送局（七六・二秒）で、月曜から金曜までの毎朝七時に「今朝の三角山」を放送しています。その日の天候などをお知らせしますので、参考にしてください。



をします。それは「ルール」だと思っていきましたが、三角山に登ると、自然にアイツが出てきたような気がします。山の自然が語り掛け、人の心に潤いを与えてくれるのかも知れません。

山頂にある1等三角点。4年前に設置100年を迎え、新しい石に取り換えられました。

